熊本駅周辺整備都市デザインの一提案

熊本では、平成22年度に開業予定の九州新幹線整備事業、平成28年度に完成予定の連続立体交差等整備事業 とともに熊本駅の周辺整備が計画されている。

平成19年度以降、本格化する駅周辺のまちづくりについて都市デザインという観点から今一度検証を行い、 熊本駅周辺整備計画に対して一提案を行う。

Step.0 現状の整理





- ・出会いとふれ合いのあるまちづくり(副都心) 熊本都市圏の副都心となり得るか?
- ・人に優しく利便性の高いまちづくり 鉄道高架化を活かした利便性の向上は可能か?
- ・水と緑の自然や歴史性を活かしたまちづくり 自然や歴史性をどのように活かすのか?

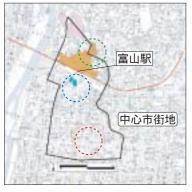
整備理念を都市デザインに反映させる段階を示す必要がある

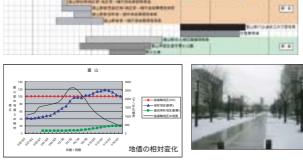
- ・熊本都市圏の副都心となり得るか?
- ・ 自然や歴史性をどのように活かすのか?
- ・鉄道高架化を活かした利便性の向上は可能か?

スケールを拡げて考える 時間軸を延ばして考える <u>具体的な</u>都市デザインの一提案を示す

Step.1 スケールを拡げる

駅周辺整備による中心市街地の変化をみる(他事例調査)

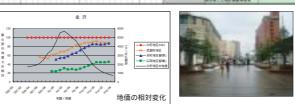




- ・富山駅周辺整備
- 「とやま都市MIRAI計画」 駅裏にビジネスパークを形成 駅裏から富山港までLRTを 整備(富山ライトレール) 地価の相対変化をみると、整 備によって、富山駅周辺が副 都心として確立したといえる





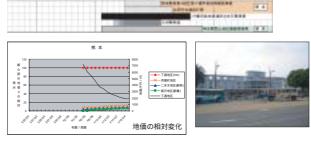


金沢駅周辺整備 駅表で市街地再開発事業、駅 裏で広範囲の土地区画整理事 業を行っている 地価の相対変化をみると、整 備によって、金沢駅周辺が副

補によって、金沢駅周辺が副都心となりつつあることがわかる

駅周辺と中心部の中間地区も 上昇傾向にある

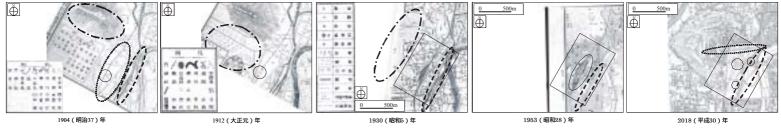


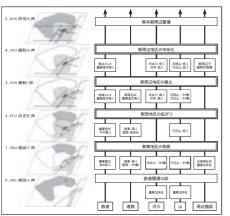


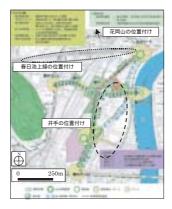
- ・熊本駅周辺整備 駅周辺と中心部との距離が遠い(約3km) 駅裏を山に囲まれているため 駅裏への広がりがない 地価の相対変化をみると、整 備によって駅周辺が富山や金 沢のように副都心となること は難しいものと考える
- ・熊本都市圏の副都心となり得るか? 地理的条件を考えると、中心部との二極を構成するような副都心となることは難しい 中心部とは違う機能を有した整備(パークステーション)を目指し、中間地区の活性化も重要である

Step.2 時間軸を延ばす

民間作成地図より駅周辺の歴史性を"履歴"と捉える







歴史性をまちに蓄積されている"履歴"として認識しまちの様々な事柄を時間軸上に積み重ねて考えた

まちの変遷を文献調査に加え、広がりを持った面的な歴史性に対応できる民間作成の古地図を用いた

未来の整備を考慮した変遷の考え方については履歴 に駅周辺整備を組み込み検討した

致や大型ビジョンの設置に

より活気溢れる駅前広場に

賑わいの広場として利用

・自然や歴史性をどのように活かすのか? まちの様々なストックを"履歴"として把握した上で「歴史性を活かした整備」を進める 現在のマスタープランでは認識の低い坪井川の井手、花岡山・万日山、北岡神社を位置づける

Step.3 都市デザインの一提案

都市デザインという観点に立った駅前広場の一提案

・現在の計画の問題点





バス乗り場が改札が遠く、分散しているため利用しづらい市電乗り場が改札から80mと遠く乗換がしづらい

バス・タクシー・一般車の出入口が1つしかないため駅前通り及び駅構内で交通混雑が起こる恐れがある

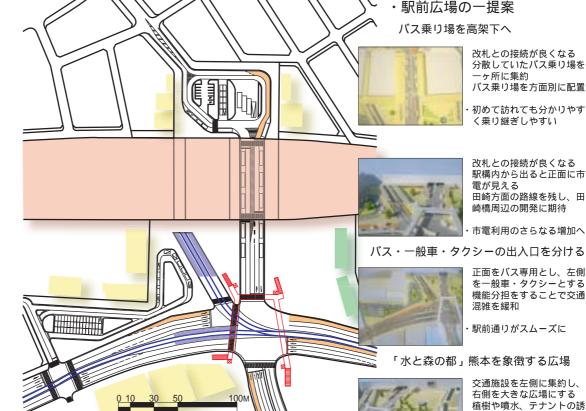
利用できない広いスペースが ある

・検討案



一般車は西口へ、公共交通機関は東口に集約する 市電を駅前広場に引き込む バスターミナルを改札近くに配置

人の動線・軸線や空きスペースの活用が課題であった



・鉄道高架化を活かした利便性の向上は可能か? 東口広場と西口広場を接続した道路にバス乗り場を配置する(バス路線網の再編が必要) 駅前広場に路面電車の停車場と人々が利用できるスペースを確保(賑わい創出の場にする)